

東京都高等学校体育連盟女子バレーボール専門部より、年１回発行される『部報』(令和５年度)に掲載された本校卒業生の文章をご紹介いたします。

令和４年　夏季大会Ｃブロック優勝

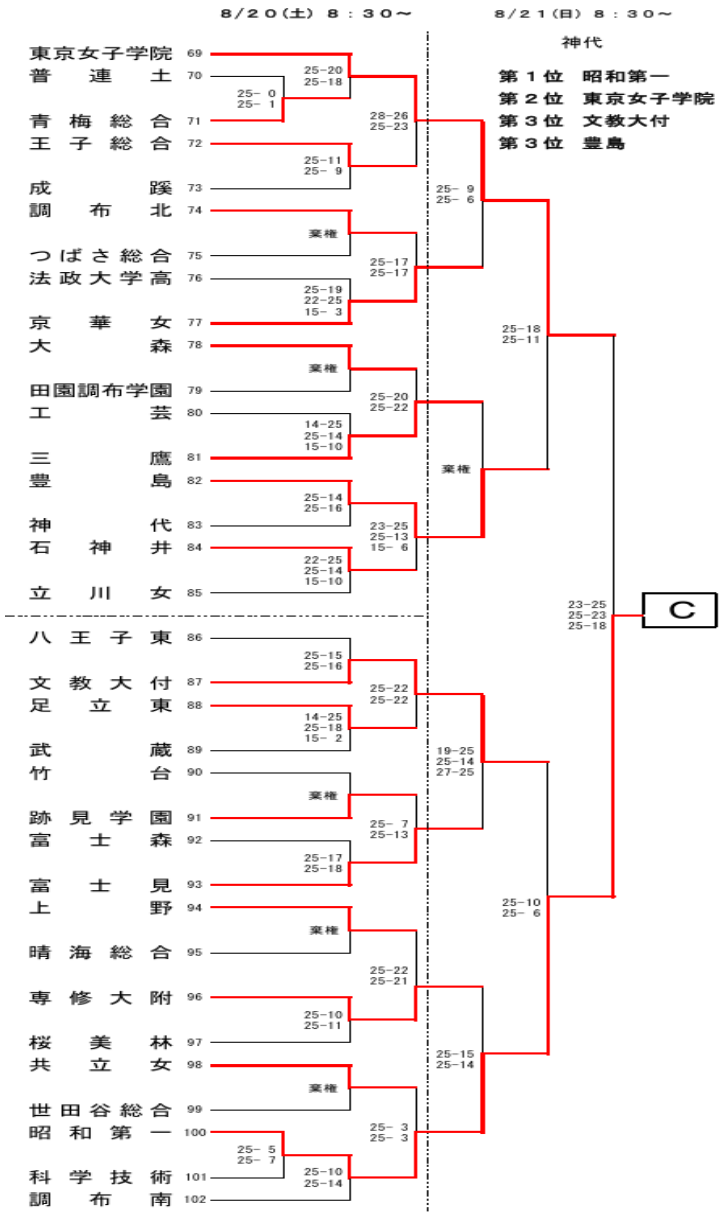
国士舘大学進学　坂本　葵

『執　念』

「春高」に感動し、バレーを始めた私にとって「春高」は憧れの舞台。ただ、春高出場が難しいのは、激戦区東京の選手であれば誰もが認めるところ。

だからこそ、春高予選に繋がる「夏季大会」(現:全日本選手権大会)は、私達の最後の挑戦となる筈だった。しかし、残念なことに、その「夏季大会」が「春高」に連動しない大会になってしまった。

コロナ禍の私たちは、常に「失望」と「絶望」を何度も繰り返させられるばかりだった。その上、最後の夏の東京は、罹患者が急増。今年も中止になるのではと不安だったが、それでも私たちは高校３年生の夏、最初で最後となる合宿に参加した。それだけ「夏季大会」に期するもの



があったからだ。

　大会はシード権のない１回戦から６回戦となる決勝まで勝ち進み、東京女子学院（現：英明フロンティア）と対戦した。試合はフルセットの激戦。
　最終セットはチームの合言葉、「謙虚」を胸に結束して勝利。そして優勝、そして引退。
　このような花道を作れたのは、練習制限の中でも自主トレを怠らなかったからだと信じることができる。
　最後まで保護者に戦う姿を肉眼でみせられなかったのは残念だが、夏季大会は、コロナ禍でも諦めなかった私達の誇りとなる最高の大会となった。
　今後はコロナ禍の私達の高校生活を心配してくださり、支えて下さった方々への感謝の気持ちを忘れず、恩返しをしていきたい。

坂本さんは、セッターとして１年生から活躍。
２年生からは主将としてチームを牽引した。
国士舘大学進学後は、同大学内にあるクラブチームに所属し、『日本混合バレーボール選手権学生大会』で第３位。『全国スーパーミックス大会』で第３位になるなどの実績を残している。同クラブチームには、国士舘大学に進学したOGも複数所属しています。







東京都高等学校体育連盟女子バレーボール専門部より、年１回発行される『部報』(令和８年度)に掲載された本校卒業生の文章をご紹介いたします。

令和７年　夏季大会Ｃブロック優勝

国士舘大学進学　五十嵐くるみ

『途　上』

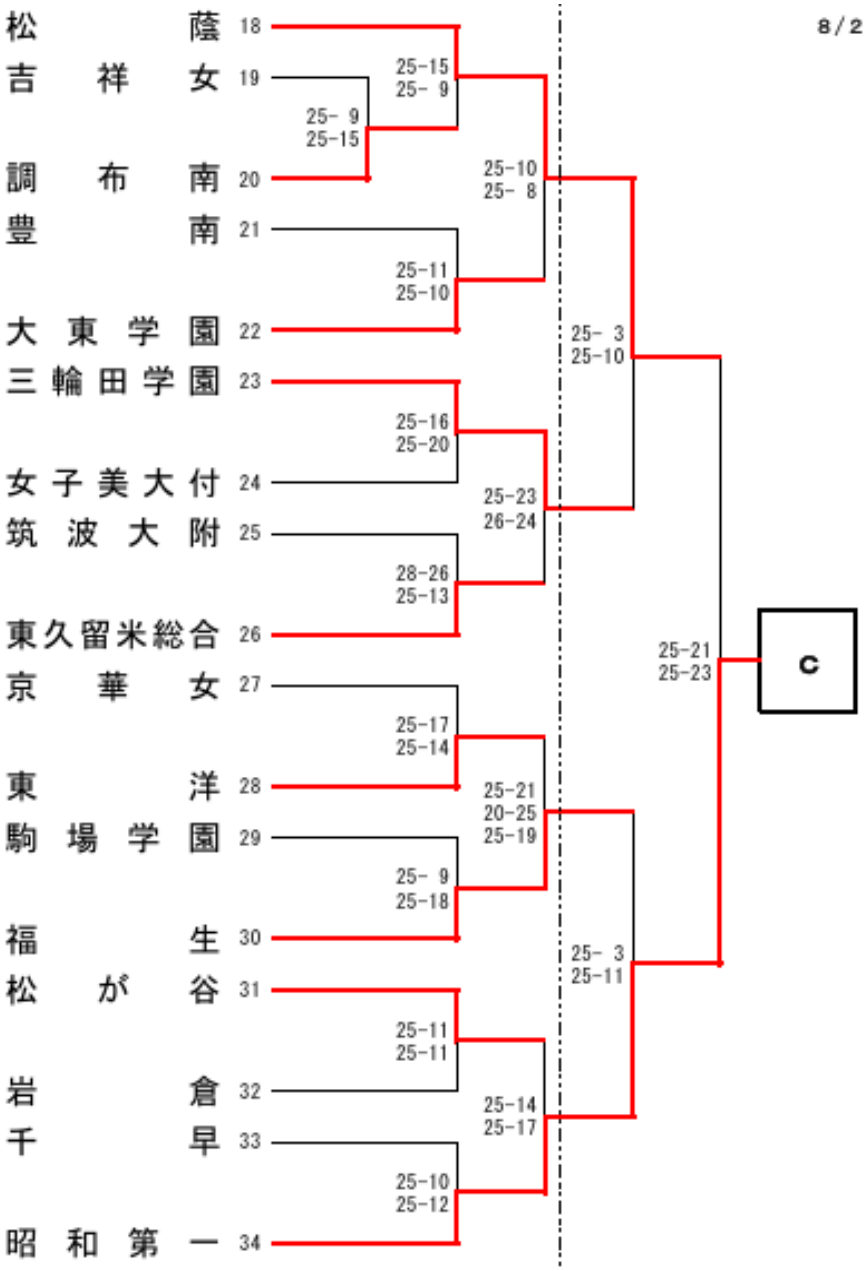
最後の夏の合言葉は、「勝って終わる」。

もちろん、優勝できたのは私たちの力だけではない。

入学当初、コロナ禍の余波もあり、部員はわずか６名。だから、試合は替えが利かない。最少人数は、会場の雰囲気や強豪校の風格に気圧される。練習もゲーム形式を積むことができない。

だから、自分たちのバレーが分からぬまま試合を続けるばかりだった。最も辛かったのは、靭帯断裂や骨折を抱えた仲間が常にいたことである。当然、大会も敗退を繰り返した。

３年生となり、多くの後輩を得た。人数増は、切磋琢磨できる環境や応援して下さる方々への感謝の念を自然



と育ててくれる。

関東大会は逃したものの、夏季大会で少しでも恩返しができたのなら嬉しい。
今の私には「夏季大会で終わらせない」思いがある。多く方々の支えと不断の努力で未知の感動を得た私は、今後 は教員としてこの経験を生徒に繋ぎたいからだ。
だから大学でもバレーを続ける選択をした。私は国士舘大学にいく。
人生で得る感動はまだ終わりではない。
続ける限り姿を変え、また必ず現れる。
だから今も人生の通過点。
大学ではレギュラーになれないかもしれないが、私は日本一を目指す。



五十嵐さんは、ミドル(センター)選手として 2 年生からスターティング選手として活躍。
また特進コースに在籍しながらも、副主将としてもチームを牽引した。
現在は、関東 1 部リーグの国士舘大学体育学部に進学し、練習に励んでいる。

